



一般社団法人 日本病理学会
〒113-0034
東京都文京区湯島 1-2-5
聖堂前ビル 7階
TEL: 03-6206-9070
FAX: 03-6206-9077
E-mail jsp-admin@umin.ac.jp
http://pathology.or.jp

一般社団法人日本病理学会

第 319 号

平成 26 年 (2014 年) 8 月刊

1. 第 103 回日本病理学会総会 (学術集会) 報告

平成 26 年 4 月 24 日～26 日の 3 日間、広島国際会議場及び ANA クラウンプラザホテル広島において、広島大学・安井弥会長、武島幸男、高田隆副会長のもとに第 103 回日本病理学会学術集会を開催し、3,100 名の参加があった。主なプログラムは以下のとおりである。

(1) 宿題報告

- ① 「主要組織適合遺伝子複合体をめぐる研究の進歩」
笠原正典 (北海道大学)
- ② 「マクロファージの活性化と病態」竹屋元裕 (熊本大学)
- ③ 「甲状腺癌の機能形態学的攻究 — 甲状腺濾胞の成り立ちから腫瘍まで —」加藤良平 (山梨大学)

(2) 特別企画

- ① 「病理学 — 復興・創生・展開・未来 —」
- ② 「学生の声: 病理学の魅力と期待」

(3) 海外招聘講演

- ① 「The role of Pathology in a global health care setting」Bettina Borisch (University of Geneva)
- ② 「The development of the TNM Classification of Gastric Cancer」Christian Wittekind (University Hospital Leipzig)

(4) レクチャーシリーズ・病理学へのヒント 6 件

(5) オープンフォーラム: 「病理学研究 — 研究推進とリサーチマインドの醸成 —」

(6) インターナショナルセッション: 「Let's talk about the fun of Pathology」

(7) 指定シンポジウム

- ① 「腫瘍病理学の真髄」
- ② 「子標的治療の病理学: 現状と展開」

(8) 指定ワークショップ 8 件

(9) 日本病理学会 100 周年記念病理学研究 新人賞選考会

(10) 病理診断講習会

- ① 系統的講習会 [乳腺, 腎臓 (腎炎・非腫瘍), 腎臓 (腫瘍), 細胞診]
- ② 臓器別講習会 [精巣, 前立腺, 唾液腺, 内分泌]
- ③ 剖検講習会

(11) 分子病理診断講習会

(12) 一般演題: 1,150 題 (一般口演 436 題, 一般示説 714 題)

(13) 学部学生示説: 116 題

(14) 市民公開講座「市民と病理の接点を探る — 乳がんの診断と治療を通して —」

(15) コンパニオンミーティング 12 件

(16) ランチョンセミナー 17 件

2. 理事会開催報告

(1) 平成 26 年 3 月 14 日 東京ガーデンパレスにて平成 25 年度第 3 回理事会が開催された。

平成 24/25 年度の活動総括, 平成 26 年度学術研究賞受賞者承認, 学術奨励賞受賞者承認等が行われた。

(2) 平成 26 年 4 月 23 日 ANA クラウンホテルプラザホテル広島にて平成 25 年度第 4 回理事会が開催された。平成 25 年度収支決算承認等が行われた。

(3) 同日, 同場所にて, 平成 26 年度新役員会が開催された。

(4) 平成 26 年 4 月 25 日 広島国際会議場にて平成 26 年度第 1 回理事会を開催した。(3) 新役員会での報告, 承認事項を改めて理事会承認事項とした。

3. 平成 26 年定時社員総会開催報告

平成 26 年 4 月 25 日 広島国際会議場にて開催された。主な報告事項, 決定事項は以下である。

(総会議事録より抜粋。尚, すでに会報で報告された事項は省略する)

(1) 理事長報告

① 医療・医学を取り巻く最近の情勢について

i. 健康・医療戦略推進法案, 独立行政法人日本医療研究開発機構法案が平成 26 年 4 月 10 日に衆議院を通過し, 今国会で成立する見通しとなった。「日本版 NIH 構想」の下, 健康・医療分野の研究開発関連予算の一元化, 戦略的・重点的な予算配分が実施されるものと予想される。

ii. がん診療提供体制の見直しによって, 「がん診療連携拠点病院等の整備について」(厚生労働省健康局長通知) (平成 26 年 1 月 10 日) が発表された。この通知により, 拠点病院で病理医の配置が必須となったほか, 病理診断がしかりと位置付けられた。

iii. 新たな専門医制度が発足し, 平成 27 年度に初

- 期研修を開始する医師から適応されることが決まった。
- iv. 第6次医療法改正の中で、診療関連死(医療事故)に関し、院内調査結果の第三者機関(医療事故調査・支援センター)への報告が義務付けられることになっている。国会審議が進み法案が通過すれば、第三者機関は平成27年10月に発足する見込みである。
- ② 学会の概況について
- i. 会員数は平成24年の4,103名から4,427名に、324名増加した。病理研修医登録制度は着実に定着し、登録者数は現在、医科389名、口腔44名となっている。
 - ii. 平成26年度より学術評議員会費の値下げを実施した。平成26年度の新学術評議員申請数は106名で、昨年より増加しており、一定の効果をおぼえていると考えている。また学術評議員キーワード登録については、1,292名中1,034名から回答があり、会員向けホームページ(HP)に掲載予定である。
 - iii. 名誉会員制度を見直し、功労会員、名誉会員の二階建てに変更を行った。
- ③ 情報基盤整備と医学生、若手医師、研究者に対する取り組みについて
- i. 病理学研究の重要性を一般に広報するため、HP上で宿題報告の一般向け解説を公開した。是非参照されたい。
 - ii. 病理学会カンファレンスは、当分の間会場を固定(神戸六甲山ホテル)することとしており、また若手筆頭発表者には旅費の補助も行っている。是非参加されたい。
 - iii. 病理学会ニュースレターの配信を開始し、HPの充実に取り組んでいる。
- ④ 病理専門医制度をめぐる状況について
- i. 平成27年度初期臨床研修開始者から実施される新たな専門医制度を視野に入れ、研修プログラムの3年制への変更など、具体的な検討を開始している。
 - ii. 全国大学病院病理部会議の後継として、平成25年度より専門医研修指導者会議を発足させた。
- ⑤ 病理業務をめぐる状況について
- i. 「国民のためのよりよい病理診断に向けた行動指針2013」を公表し、基本姿勢とともに、短期、中期、長期の目標と行動方針を国民に向けて提示した。この件は関係省庁等も関心を示している。
 - ii. 平成26年度診療報酬改定では実質マイナス改定の中で、病理業務ではすべての項目において点数が維持され、液状化細胞診が初回から算定可能となった。病理診断管理加算の要件が明確化(7年以上の経験を有する医師)され、また
- 診療機関間連携の規制緩和もなされた。
- iii. 外部精度管理機構NPO法人が設立された。Her2の精度管理を担う予定である。
 - iv. 病理技師認定制度について臨床検査技師会に協力し、平成26年末に第一回試験が実施される予定である。
- ⑥ がん病理診断に関する状況について
- i. がん取扱い規約の用語統一に関して、がん治療学会に申し入れ、関連学会で協議する場を設定することとなった。
 - ii. 病理検体の取扱いガイドラインの策定にも取り組む。
- ⑦ 医学研究発展のための基盤整備について
- i. 病理学会の学術研究への支援・協力体制を整備した。
 - ii. ゲノム病理診断に関する検討委員会を立ち上げ基盤整備を図る。
 - iii. 文部科学省からの委託事業「がん研究のための病理検体処理の標準化に向けた講習」の引き受けについては明日のセッションにて文科省の担当官より、詳細説明が行われる予定である。
- ⑧ 以上の報告とあわせて、深山理事長より、各種委員会委員、学術評議員らを含む会員にこの2年間の会務への参加につき謝意が述べられた。
- ⑨ 病理学会の未来に向けた資産活用について
- i. 剖検輯報の登録を持続可能な形で維持するため、新システム構築とオンライン登録化の検討を行う。実現のためには2,3千万円程度の経費がかかる可能性がある。
 - ii. 学術活動の国際化として、Pathology Internationalの発展、HPやコア画像の英語化、海外学会との交流やIAPとの協力等にも資産を活用する。
- 以上のことを次期執行部へ引きつぎ、取り組みたい旨、深山理事長より述べられた。この方向性について理事長より出席者に諮られ、満場一致で承認された。
- (2) 学術関係委員会関係報告
- ① 学術委員会報告
- i. 2014年秋期特別総会での診断シリーズ、A演説、B演説の選考を行った。
 - ii. 学術奨励賞の選考(学術奨励賞選考委員会)を行った。
 - iii. 学術評議員のキーワード登録を実施した。回答率90%以上で、病理学会HPに掲載している。
 - iv. 学術評議員の申請資格、任期制、更新時評価について検討を開始している。
 - v. 病理学会の国際化として、総会において、国際セッションの設置、英語での登録、スケジュールの英文併記等について可能などから実施を行う。

② 研究推進委員会

- i. 本年第 11 回カンファレンスのテーマは「イメージング技術の進歩と医学研究」で、中村卓郎学術評議員が世話人をつとめる。会期は平成 26 年 8 月 1～2 日の予定である。
- ii. 来年第 12 回カンファレンスの会期は平成 27 年 7 月 24～25 日の予定である。
- i, ii ともに是非参加されたい。

③ 編集委員会

- i. “Pathology International” の活性化と IF の増加のため、副編集長を選任し、各種事項の検討を行う。また診断病理との連携を強める。
- ii. 「診断病理」は順調に発行されており、電子投稿への移行を検討している。
- iii. 「剖検輯報」のデータ提出について予算化し、対応する。

(3) 病理専門医部会関係委員会関連委員会関係報告

① 専門医制評価・認定機構の動向と本学会専門医制度について

- i. 現在の専門医制評価・認定機構は、5/8 に解散し、新たな中立的第三者機関として「日本専門医機構」(新機構)が設立される。ここで専門医の認定と養成プログラムの評価・認定を統一に行う事となっており、平成 27 年度医学部卒業生よりこの制度の適用となる。
- ii. 病理は基本診療領域 18 科の一つとなるが、新機構の提示するプログラム、及び他領域との足並みを揃えるため、本会の病理専門医制度も、2 年の臨床研修終了後行う後期研修(病理研修)の期間を 3 年以上とすることを提案したい。
- iii. ii で説明された現在 4 年の後期研修期間を 3 年とし、各種準備を進める件につき出席者に諮られ、満場一致で承認された。正式には今秋の沖縄総会にて規約改定の形で提案する。
- iv. 本学会では、新機構への制度移行に先立ち、平成 27 年後期研修開始者より、後期研修 3 年制を適用することとし、規定改定の提案や研修プログラムの見直しを進める。
- v. 本年の試験は東京医科大学、来年以降 2 年間は東邦大学で実施される。

② 診療報酬改定について

平成 26 年度の改定の大きな変更点、注意点等については本学術集会会場内にポスターを掲載しているので、参考にされたい。特に病理診断管理加算請求における「病理診断科」標榜の件や、担当医師の病理経験年数の要件緩和等が留意点である。尚、病理診断書のサインアウトを経験 7 年以上の方を含む 2 名以上で行っておくことをお勧めする。

③ 診療関連死調査の法制化については、現在具体的な制度内容について審議が開始された。病理学会

からは深山理事長が出席し、解剖に関するガイドライン作成に関与している。

④ 病理認定技師について

病理業務に携わる検査技師の立場向上のため、臨床検査技師会に協力し、認定病理技師の試験制度設立の準備を行っている。本年にも試験開始予定で、病理医は受験者の推薦状の記載をすることになっているので協力されたい。

(4) 今後の総会開催予定

- ① 第 60 回(平成 26 年度)秋期特別総会 沖縄
会長:吉見直己(琉球大学)
会期:平成 26 年 11 月 20 日(木)～21 日(金)
会場:国立劇場おきなわ
- ② 第 104 回(平成 27 年度)総会 名古屋
会長:高橋雅英(名古屋大学)
会期:平成 27 年 4 月 30 日(木)～5 月 2 日(土)
会場:名古屋国際会議場
- ③ 第 61 回(平成 26 年度)秋期特別総会 東京
会長:石川雄一(がん研究会がん研究所)
宮園浩平(東京大学)
会期:平成 27 年 11 月 5 日(木)～6 日(金)
会場:東京大学安田講堂
- ④ 第 105 回(平成 28 年度)総会 仙台
会長:笹野公伸(東北大学)
会期:平成 28 年 5 月 12 日(木)～14 日(土)
会場:仙台国際センター
- (5) 平成 25 年度事業報告ならびに収支決算に関する件(承認・会報 317 号報告済み)
- (6) 平成 26 年度新名誉会員推戴の件(承認・会報 316 号報告済み)
- (7) 平成 26 年度新功労会員推戴の件(承認・会報 316 号報告済み)
- (8) 平成 26 年度新学術評議員候補者の件(承認・会報 316 号報告済み)
- (9) 平成 26/27 年度役員交代の件(承認・会報 316 号報告済み)

4. 第 32 回病理専門医試験について

本年度の病理専門医試験は、7 月 26 日(土)、7 月 27 日(日)に東京医科大学にて実施されました。

90 名が受験して、74 名が合格しました(合格率 82.2%)。合格者氏名ならびに病理専門医登録番号は、次のとおりです(登録年月日:平成 26 年 7 月 31 日)。

平成 26 年度病理専門医合格者氏名

認定番号	姓 名		
3076	中野 麗香		
3071	岡田 晴香	3077	田尻 亮輔
3072	山田 勢至	3078	河合亜希子
3073	大江倫太郎	3079	竹治みゆき
3074	佐藤 聡子	3080	山田 侑子
3075	藤田 泰子	3081	日比谷孝志

3082	白木 之浩	3114	仲山 貴永
3083	服部 行紀	3115	石橋 康則
3084	佐藤 泰樹	3116	大西威一郎
3085	中西ゆう子	3117	鮫島 直樹
3086	阿曾 達也	3118	鷺見 公太
3087	阿萬 紫	3119	藤原 英世
3088	諸橋 聡子	3120	三浦 泰朗
3089	辻 洋美	3121	山下 大祐
3090	森田 茂樹	3122	板倉 裕子
3091	高松 学	3123	齊郷智恵美
3092	徳安 祐輔	3124	安里 嗣晴
3093	山田 裕一	3125	中里 宜正
3094	熊澤 文久	3126	仲山美沙子
3095	平 沙代子	3127	田中麻理子
3096	古谷 未央	3128	富田 弘之
3097	井上 和成	3129	立石 文子
3098	西村 瑤子	3130	勝蔦 浩紀
3099	小川 博久	3131	長沼 誠二
3100	竹本 暁	3132	新垣 和也
3101	齊藤 涼子	3133	中嶋 隆彦
3102	松岡 圭子	3134	木脇 圭一
3103	郡司真理子	3135	狛 雄一朗
3104	渡辺 緑子	3136	廣橋 良彦
3105	大月 聡明	3137	田村麻衣子
3106	小野 響子	3138	藤澤 孝志
3107	天野 知香	3139	正木 彩子
3108	佛淵 由佳	3140	裴 有安
3109	三宅 暁夫	3141	長峯 理子
3110	野田 博子	3142	大郷 恵子
3111	佐藤 啓	3143	三好 寛明
3112	山本美保子	3144	浦岡 直礼
3113	宮井 由美		

平成 26 年度口腔病理専門医合格者氏名

口腔認定番号	姓 名		
171	橋本 和彦	175	吉田 真希
172	常松 貴明	176	中野 敬介
173	安原 理佳	177	齋藤 彰久
174	木村 相泰		

また、口腔病理専門医試験実施委員会の委員構成は以下のとおりです。

第 22 回（平成 26 年度）（3 名）

美島健二（委員長）、伊藤由美、森 泰昌

6. 日本病理学会専門医研修・日本法医学会認定研修に於ける解剖に関する申し合わせ

このたび日本病理学会と日本法医学会は、病理専門医あるいは法医認定医の研修における解剖に関する申し合わせを締結いたしました。

参照 http://pathology.or.jp/news/pdf/jslm_140812.pdf

昨今、病理学会では全国的な剖検数減少が問題となっており、病理専門医試験の受験資格取得に必要な体数を確保する必要がございました。そこで法医学会と検討を重ねた結果、主執刀 5 体分の法医解剖を受験資格要件の解剖経験の一部として認めることにいたしました。法医学会においても病理解剖を経験することは研修上非常に有意義であるという観点から、病理解剖の経験（補助を含む）を法医認定医資格取得の要件の一部として認めることになりました。詳細は決定次第、会員の先生方にホームページ等にておしらせいたします。

専門医制度全体の見直しが進む中、病理専門医試験もできるだけ多くの方が受験できるよう工夫する必要があると考えております。今回の申し合わせの締結が少しでもその役に立てるよう期待してやみません。

7. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

宇宿源太郎 功労会員（平成 26 年 2 月 20 日ご逝去）

お知らせ

1. 第 2 回国際腎病理学会（2nd International Renal Pathology Conference）開催とレジストレーションのお知らせ

開催日時：平成 27 年 3 月 4 日～ 7 日

開催場所：つくば市国際会議場

詳細：http://www.renalpathsoc.org/index.php?page=activities_page2

また、病理専門医試験実施委員会の委員構成は以下のとおりです。

第 32 回（平成 26 年度）（11 名）

大橋健一（委員長）、松林 純、藤井丈士、比島恒和、梶原 博、亀山香織、三上哲夫、坂谷貴司、笹島ゆう子、柴原純二、都築豊徳

5. 第 22 回口腔病理専門医試験について

本年度の口腔病理専門医試験は、第 32 回病理専門医試験と同日、同会場で行われました。

9 名が受験して、7 名が合格しました（合格率 77.8%）。合格者氏名ならびに口腔病理専門医登録番号は、次のとおりです（登録年月日：平成 26 年 7 月 31 日）。